



COMPLETE CARE

ウサギの健康を科学する

うさぎの暮らし実態調査 2026

2026年3月30日

 一般社団法人
うさぎの環境エンリッチメント協会

■ 調査概要

調査名：うさぎの暮らし実態調査 2026

調査主体：一般社団法人うさぎの環境エンリッチメント協会

調査設計・集計・分析：エイチ・リンク合同会社

(担当：橋爪宏幸／協会 専務理事、エイチ・リンク合同会社 代表)

調査方法：インターネット調査

回答数：738名

調査期間：2026年2月23日～3月15日

本調査は、日本におけるうさぎの飼育実態を把握し、飼育環境の改善および情報発信の基礎資料とすることを目的として実施しました。

本調査は、うさぎの健康・行動・飼育環境に関する全国規模のデータを収集し、飼育者・獣医療機関・行政・企業が共通の基盤として活用できる“客観的な指標”を提供することを目的としています。

うさぎの飼育頭数が増加し、平均寿命が延びる中で、高齢期のケアやうっ滞予防などの課題は社会的な重要性を増しています。

■総括

本調査により、うさぎの飼育において以下の実態が明らかになりました。

- 一部の健康トラブルは一定の割合で発生している。
- 飼育環境には改善余地が多く残されている。
- 一方で、飼い主の関心や意識は高い水準にある。

これらの結果から、

「知識と環境の両面に改善の余地がある」と考えられます。

適切な情報提供と環境改善により、うさぎの健康状態は大きく改善できる可能性があります。

具体的な例としては、草食動物本来の行動である『咀嚼（そしゃく）』を最大限に引き出す食事管理と、捕食される側としての本能的な不安を取り除く『隠れ場所の質（環境エンリッチメント）』の向上が、多くの健康トラブルを未然に防ぐ鍵となります。

本調査は、うさぎの飼育実態を定量的に把握した国内でも大規模な民間調査であり、うさぎの長寿化に伴う新たな健康課題や、飼育環境の格差を明確に示す結果となりました。

特に、うっ滞経験率 73.6%、強制給餌経験 42.3%という数値は、犬猫には見られない“うさぎ特有の健康リスク”が広く存在していることを示しています。

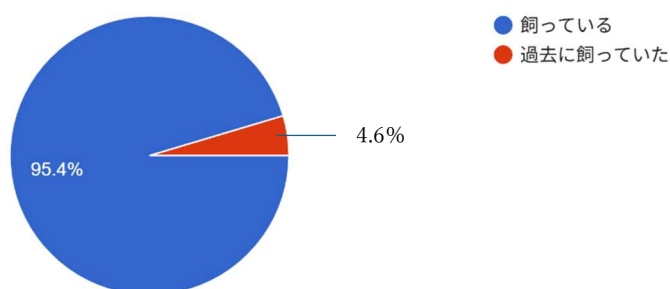
これらの課題は、飼い主個人の努力だけでは解決が難しく、**社会全体での情報整備・予防**

医療の普及・飼育環境の標準化が求められます。

1. 基本属性と飼育状況の傾向

現在の状況について

738件の回答

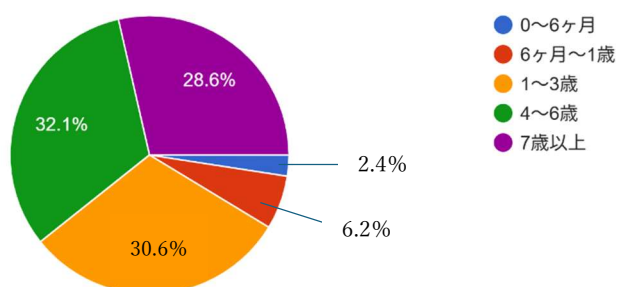


●年齢構成

うさぎの年齢層は若齢から高齢まで幅広く分布しており、ライフステージ全体をバランスよく把握できる結果となりました。

うさぎの年齢（複数いる場合は代表の子）

738件の回答

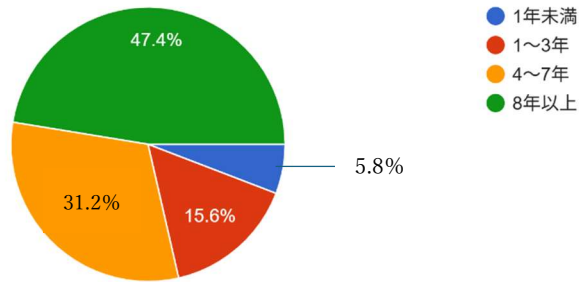


●飼育歴

8年以上の飼育経験者が約半数（47.4%）を占め、経験豊富な飼い主が多いことが明らかになりました。

あなたの飼育歴

738件の回答

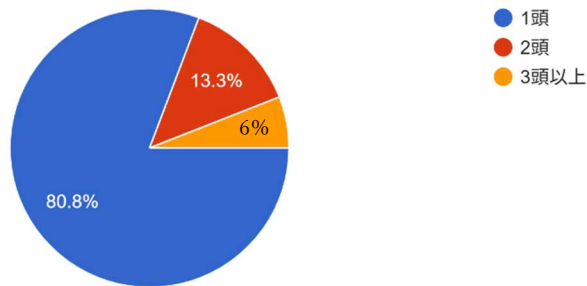


●飼育頭数

80.8%が1頭飼育であり、単独飼育が主流であることが確認されました。一方で、刺激不足を防ぐ環境設計の重要性が示唆されます。

飼育しているうさぎの頭数

738件の回答

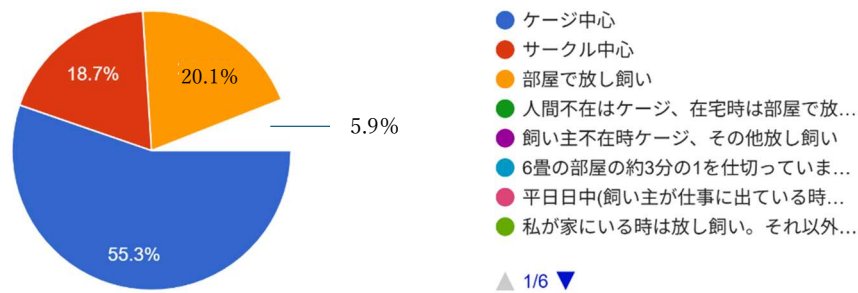


●飼育スタイル

ケージ中心（55.3%）が主流である一方、サークル・放し飼いも一定数（38.8%）存在し、飼育スタイルの多様化が進んでいます。

今後はより広い空間など、多様な飼育方法の検討が必要と考えられます。

主な飼育スタイル
738件の回答



●運動時間

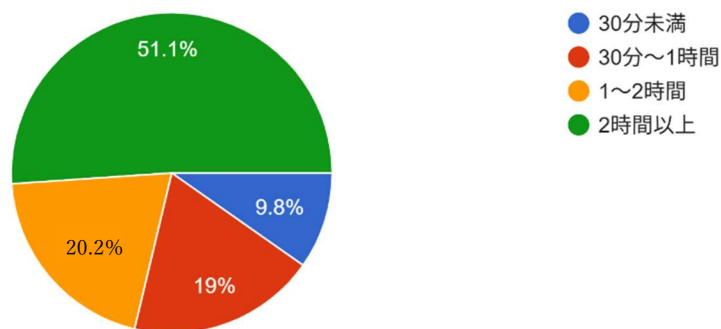
1時間未満が約3割（28.8%）を占める一方、2時間以上が約半数（51.1%）存在し、二極化が見られます。

運動不足は健康リスクに直結するため、適切な運動環境の整備が課題です

運動不足は消化管運動の低下やストレス行動の増加と関連しており、うっ滞の高発生率（73.6%）の一因となっている可能性があります。

1日の運動時間（ケージ外）

738件の回答



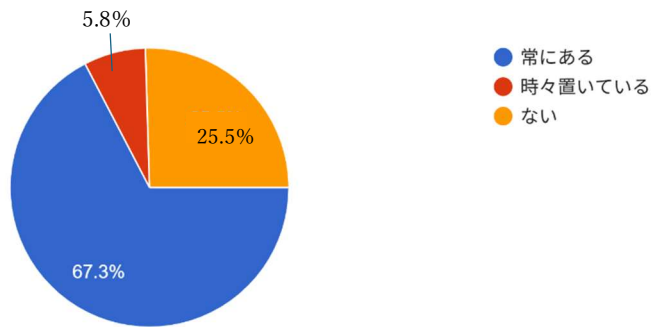
●飼育環境（隠れ場所・かじるおもちゃ）

- 隠れ場所なし：25.5%
- かじるおもちゃなし：38.2%

行動欲求が満たされていない個体が一定数存在し、ストレスや健康問題の原因となる可能性が示唆されます。

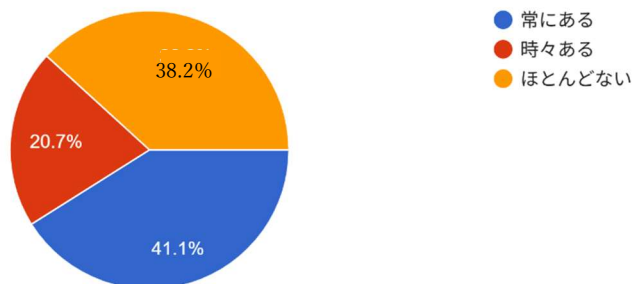
隠れ場所（ハウス）はありますか？

738 件の回答



かじるおもちゃの使用状況

738 件の回答



2. 健康状態とリスク要因の分析

●主食の割合

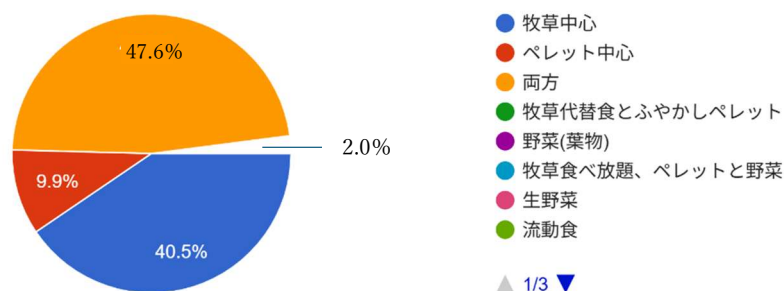
牧草中心が40.5%、牧草とペレットの両方が47.6%と理想的な傾向が見られる。一方で、ペレット中心の飼育も9.9%存在します。

食事内容は健康に直結するため、適切な食事内容が重要です。

その他にも食の多様性や介護食などが認められました。

主食

738件の回答



●食欲不振

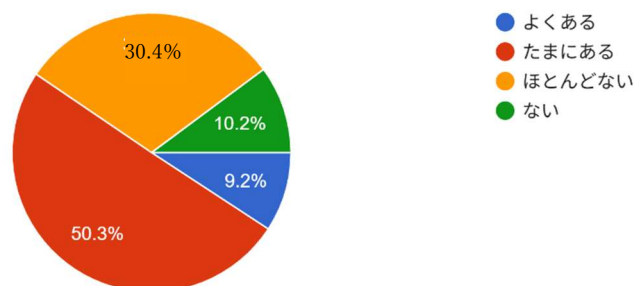
食欲不振については、「よくある」「たまにある」を合わせると約6割（59.5%）の飼い主が経験しており、多くの飼い主が一度は直面する可能性のある課題であることが分かりました。

一方で、「よくある」と回答した割合は約1割（9.2%）にとどまっており、日常的に頻発する問題というよりも、突発的に起こるケースが多いことが示唆されます。

このことから、いざという時に備えた知識や対策の重要性が高いと考えられます。

食欲不振（食べなくなる）を経験したことはありますか

738件の回答



●うっ滞（胃腸トラブル）

約7割（73.6%）が経験しており、高い発生率が確認されました。

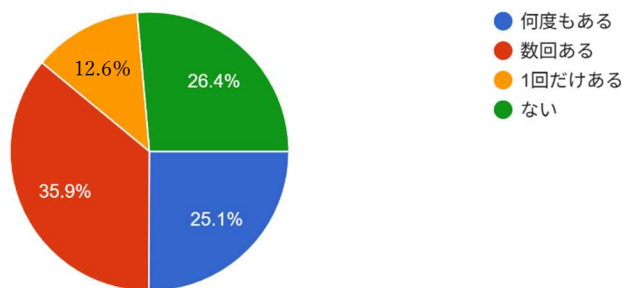
うっ滞は

- 食事
- 水分
- 運動
- ストレス

など複数の要因が関与するため、総合的な管理が必要です。

うっ滞（胃腸トラブル）を経験したことがありますか

738件の回答

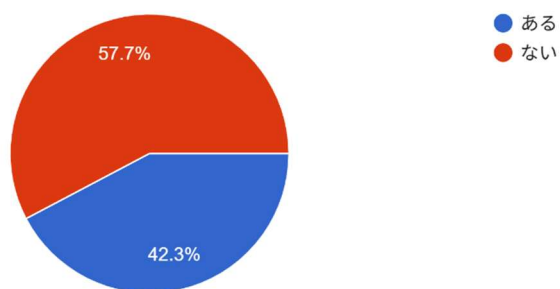


●強制給餌

約4割（42.3%）の飼い主が、食欲不振時などに強制給餌を経験しており、うさぎの健康管理において「いざという時の備え」が重要であることが明らかになりました。

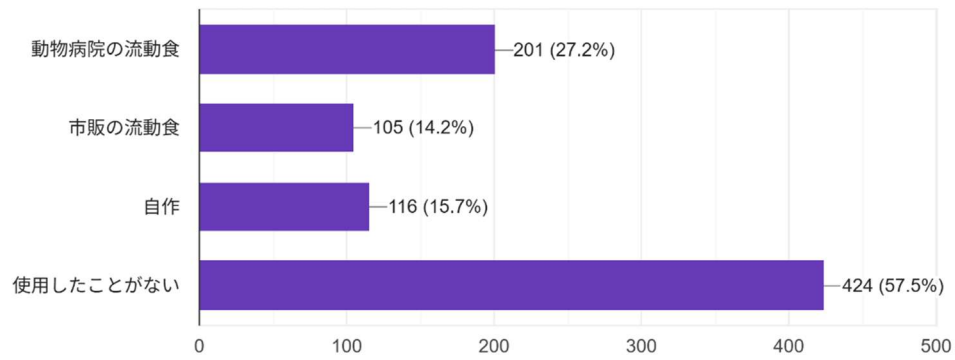
強制給餌の経験

738件の回答



強制給餌に使用したもの（複数選択可）

738 件の回答



3. 医療・健康管理

●通院頻度

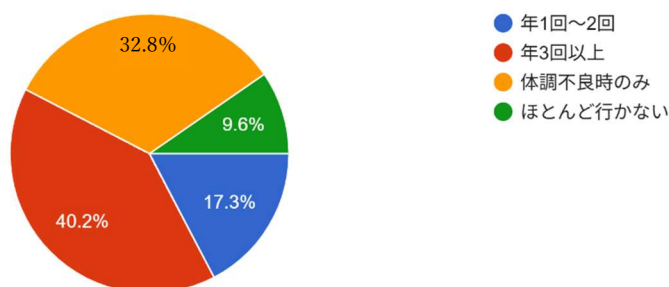
通院頻度については、「年3回以上」が40.2%と最も多く、定期的に通院している飼い主が多い結果となりました。

一方で、「体調不良時のみ」が32.8%と一定数存在しており、予防的な通院習慣には個人差が見られます。全体として、うさぎの健康管理に対する意識は比較的高いことが示唆される結果となりました。

うさぎは体調変化が分かりにくいいため、定期健診の不足は疾患の早期発見を妨げる要因となっています。

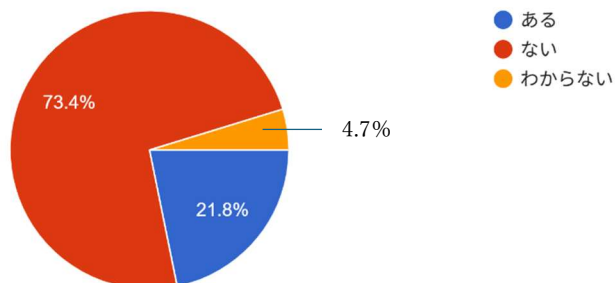
通院頻度

738件の回答



不正咬合（歯のトラブル）の有無

738件の回答



4. 飼い主の不安・困りごと

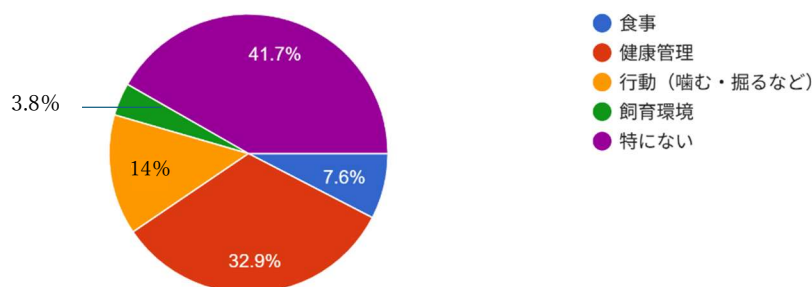
飼い主の悩みについては、「特にない」が41.7%と最も多く、全体として安定した飼育環境が維持されていることがうかがえる結果となりました。

一方で、「健康管理」に関する悩みが32.9%と一定数存在しており、日々の体調管理や将来的な健康への不安が主要な課題であることが分かります。

また、「行動（噛む・掘るなど）」に関する悩みも14%見られ、環境や刺激の与え方に関する課題も一部で存在しています。

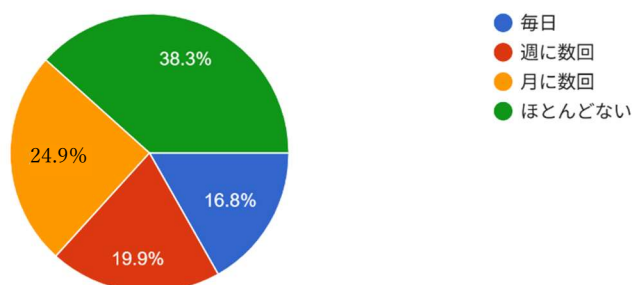
現在最も困っていること

738件の回答



うさぎの生活に「変化」や「刺激」を与えています...など、適度な刺激を与える変化などを指します。

738件の回答



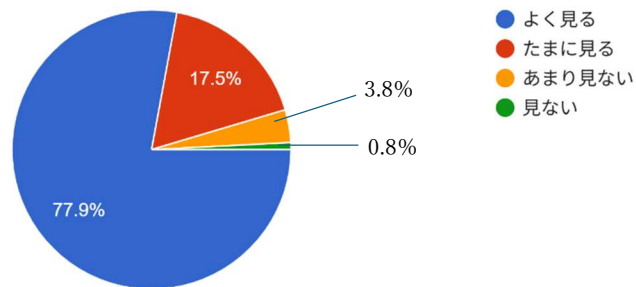
5. 行動・関係性

● リラックス行動とコミュニケーション

77.9%がリラックスした様子を見せており、多くのうさぎが環境に適応できています。

うさぎは毎日リラックスした姿（ゴロン・バタン）を見せますか

738件の回答

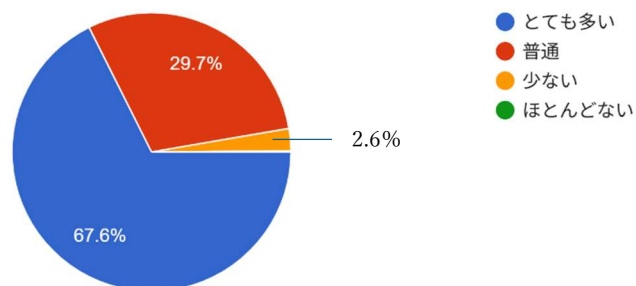


● コミュニケーション

67.6%が良好な関係を築いており、飼い主との関係性は概ね良好です。

飼い主とのコミュニケーション（撫でる・寄ってくる）

738件の回答



6. 提言

本調査結果から、うさぎの健康維持には「日常の環境」と「食事管理」が重要であることが改めて示されました。

1. 飼育環境の見直し

- ・運動時間の確保
- ・隠れ場所の設置など行動欲求の充足

2. 食事管理の最適化

- ・適切な食事内容による繊維質の確保

3. 予防医療の推進

- ・定期通院の習慣化
- ・早期発見・早期対応の体制づくり

7. 協会の役割

当協会は本調査結果を踏まえ、飼い主の方への正しい情報発信と継続的な実態調査を通じて、うさぎの福祉向上に取り組んでまいります。

本調査を単発の取り組みとせず、**年次調査として継続的に実施し、うさぎの健康・福祉に関するデータを体系的に蓄積することを目指します。**

また、**高齢うさぎに特化した追加調査や、うっ滞の要因分析などの専門的研究も進め、科学的根拠に基づく飼育環境改善の指針づくりに取り組んでまいります。**